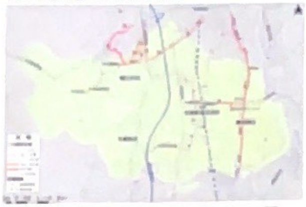
―コミュニティバスの再編から始まった岩手県矢巾町の公共交通政策―

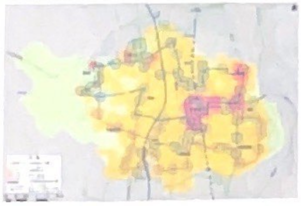
岩手県立大学総合政策学部　宇佐美誠史　矢巾町企画財政課　花立孝美・工藤優平

誰も乗らない1周1時間半のコミュニティバス改編から

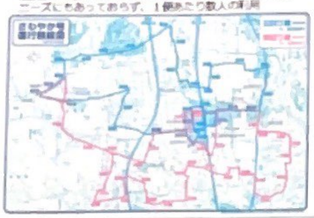
【2017年頃の矢巾町の公共交通】
南北を貫く東北本線と国道4号沿いの路線バス
矢巾町中部で盛岡に向かう路線バス



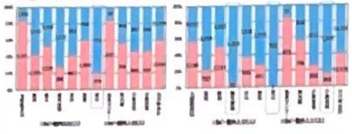
結果、交通空白地が多数存在



週2日のみ運行の1周1時間以上かかるコミュニティバス
ニーズにもあっておらず、1便あたり数人の利用



地区別のバス停カバー人口（左が平日、右が休日）

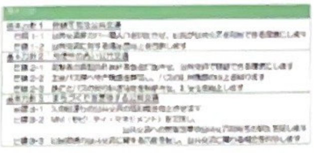


バス停から250mのカバー圏内には、平日では矢巾町全体の6割、バスの運行が減少する休日では4割の住民が居住している。

徳田地区の南部や煙山地区、不動地区の西部など郊外部においては、休日では住民の8割以上がバス停のカバー圏外となり、バスを利用することが難しい状況にあった。

旧矢巾町地域公共交通網形成計画（2018-2022）

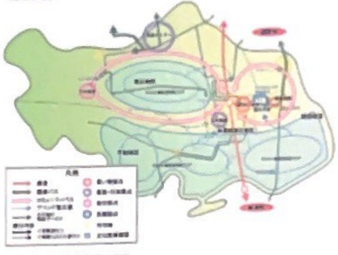
矢巾町においては、路線バスの不採算路線の廃止及び縮小により、公共交通不便地域が点在していることに加え、町政的にも目立つ存在であるコミュニティバス「さわやか号」の利用者も減少していた。さわやか号の廃止について議論が浮上したが、ごく一部の利用者にとってはさわやか号は生活交通として欠かせないものとなっているなど、単純に廃止ではなく、使える公共交通をつくる必要が生じた。このような経緯から、公共交通事業の立て直しには計画が必要と考え、2017年1月に「矢巾町地域公共交通会議」を設置、同年6月には議会で「交通に関する特別委員会」が設置されるなど協議を重ね、2018年1月に「矢巾町地域公共交通網形成計画」が策定された。



かつてのコミュニティバス

目指した姿

公共交通空白地区を解消するとともに、需要に応じた運行に切り替えることで、利便性・効率性の高い公共交通ネットワークを構築する。



計画に記載された実施内容

- 現状のさわやか号は、利用者の多い区間や矢巾町の東西移動を支える区間は残し、利用者の少ない区間を大幅に見直すことで、新たなコミュニティバスとして一新します。
- 公共交通空白地区の解消を目的に、新たな公共交通サービスである「デマンド型交通」を導入します。
- 岩手医科大学附属病院の移転に伴う路線バスの運行ルートの変更や矢幅駅を発着する系統の増便等、交通事業者と継続的に協議します。
- 公共交通ネットワークの再構築にあたり、交通事業者間の調整や町民の意見・要望のとりまとめ等の全体調整は、矢巾町地域公共交通会議が行います。
- 公共交通ネットワークは、利用状況やその他の施策の取り組み状況に合わせて、随時見直しを実施します。

コミュニティバス「やはぱす」の取組

【市街地循環バス「やはぱす」について】

「やはぱす」は、バス事業者の運転手減少に伴う対策として行っていた「さわやか号」の事業を大きく見直し、岩手医科大学の移転に伴う職員や通院者の足の確保と市街地における町民の移動手段として買い物での利用を想定したもので、2019年度からの運行に伴い、名称を町民から募集し「やはぱす」としたものです。

「やはぱす」は、JR矢幅駅と岩手医科大学及びその周辺ショッピングセンターを循環する路線と、その路線に加えて矢幅駅周辺市街地（役場やショッピングセンター）を循環する部分を加えた路線の2種類の路線を時間帯により交互に運行しており、どこまで乗っても150円という料金としています。

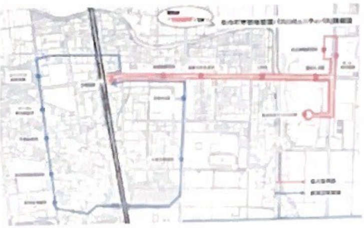
バスロケーションにも対応し車両がどこにいるかわかる仕組みとなっています。

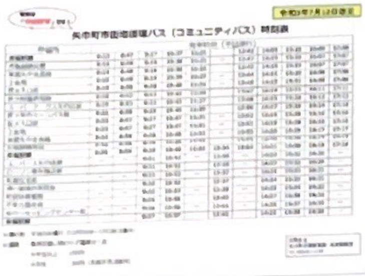
【2023年2月にリニューアル】

2023年2月からは車両をリニューアルし、これまでの中型バスから大型バスとなりました。

さらに矢巾町にある南昌山が宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」の舞台であるという説から、「銀河鉄道」をイメージしたデザインを岩手県立大学の学生がデザインし、歩道側と車道側を異なるデザインとする斬新なものとしました。地元でも「やはぱす」とわかりやすいデザインとして好評です。

さらにはキャッシュレスへの取組としてJRのSuicaを支払に使用できることとしたことから利便性の向上が図られ、乗降者は増えています。

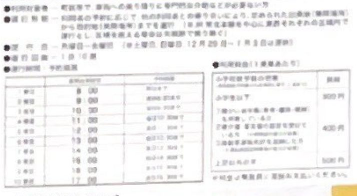




矢巾町市街地循環バス（コミュニティバス）時刻表

デマンドバス「のりあい号」の取組

予約型乗合バスの概要



【のりあい号について】

のりあい号は、タクシー車両を利用してバスのように乗合による利用を想定した新しい公共交通です。

運行主体は矢巾町、運行業務は地元のタクシー事業者である矢巾タクシーに委託しています。

一日1時間ごとに1便、計10便を運行とし、矢巾町のほぼ中央部にあるJR矢幅駅を中心に運行エリアを東西に分けて運行しています。

利用料金は上の図の通り、小学生以下300円、障害者手帳を有する方、要介護・要支援認定を受けている方、自動車運転免許証を返納した方は400円、それ以外の一般の方は500円です。今のところ乗合割引や定期券での運行は行っておりません。

試験運行期間中であった2019年から2021年度までは、東西をそれぞれの運行区域としていたため、それぞれの区域から別の区域に行くためには乗り換えと追加での料金が必要でしたが、本格運行となった2022年度からは同じ車両で追加料金なく東西の区域を行き来できるようになっています。

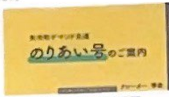
予約は、利用したい時間の30分前までに電話予約を行う必要があります。

一度予約すると2度目からは顧客管理と最適ルート管理をシステムで行うため、同じルートなら予約がスムーズです。

【「さわやか号」から「のりあい号」へ】

デマンドバス「のりあい号」は、それまで町で運行していた「さわやか号」では行きたい場所に到達するために相当な時間を要し、なおかつ週に2日の運行では利用者のニーズに応えていなかったという反省から、町内どこでも定額料金かつ毎日運行で使いたいときに使えるものをというニーズに応えるべく、町内に300か所以上設置した乗降所間で移動可能な、タクシー車両を利用した乗合バスとすることで、低料金かつ利便性を確保した新しい公共交通を導入しました。

町内の路線バスを担ってきたバス事業者の路線が次々と廃止となる中、町内での移動がままならない状況となってきており、補完すべく立ち上げたさわやか号も週2日運行だったことを考えると、革新的であり、乗降所間での移動とは言え乗降所は地域からの要望で増やすこともできることから、ほぼ町内全域を定額料金で運行することが可能となったものです。



矢巾町デマンド交通
のりあい号のご案内

予約の仕方の紹介動画

のりあい号車両

【現状の課題】

徐々に利用者は伸びていますが、利用者からの要望として以下のものがあります。

- ドアトゥドアの実現
- 近隣市町への乗り入れ
- 予約のネット化
- 低料金化、乗合時の割引制度導入
- 土日早朝深夜運行の実現

ドアトゥドアの実現は、地元タクシー事業者の事業圧迫につながることから本町では行わないこととしています。土日早朝深夜の運行についても同様の理由で行っていないところであり、周知と乗降場の充実が継続して必要と考えています。

新しい技術を活用した データの見える化・運行改善の取組

【新技術活用の検討】

地域公共交通計画の最後14番目の事業として、新技術の活用を掲げました。項目は以下の3つです。

- 新技術の情報収集

AI(人工知能)による自動運転技術やCO2排出を削減し環境に配慮したグリーンスローモビリティや電気バスなどの新技術を調査検討します。

- 新技術を活用した新たな交通サービスの検討

利用者の移動ニーズに対応して、移動サービスを組み合わせて情報提供し、更に一括で決済まで行うことができるMaaS等の新たな交通サービスの検討を行います。

- データを活用した施策の検討

パーソントリップ調査やICカードの利用者情報の分析、GISによる人口分布データなどの資料を元に地域公共交通会議で検討を行い、データを活用した施策を実施します。

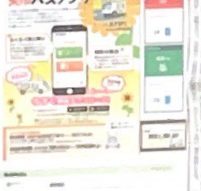
矢巾町と岩手県立大学、ぴーぷる、福祉技術コンサルタントが共同して実際に取り組んだこと、取り組み途中のものを紹介します。

1　乗客の乗降データの可視化

デマンドバス「のりあい号」の乗降データを、時間の経過とともに時間別に移動状況が一目でわかるように、動画にまとめた。乗降場所から通院や買物などの移動がいつ起こっているかがわかりやすく可視化されたため、事務局はもちろんのこと、公共交通会議の構成員にもデマンドバスの利用状況がわかりやすく伝えられたと思います。

2　スマホアプリによる「やはぱす」の利用（2021年9～10月）

iPhoneやAndroidに「やはぱす」用の乗車アプリを試行的に実践。アプリ上で乗車券を購入し、乗降時に車載器にスマホをタッチすることで乗降履歴を取得。最初の１週間は無償で、以降の４週間は有償での提供をしました。



3　電子ペーパーによる運行時刻案内

- 矢巾町管内運行の一般路線バス、コミュニティバスの位置情報（GTFS-RT）を取得し、電子ペーパー上に反映
- 42型電子ペーパーをJR矢幅駅改札口付近に設置予定
- 運行状況のデータを取得、後のダイヤ改正に活かす予定

町独自の取り組みを継続しつつ、 盛岡広域での地域公共交通計画策定へ

1　一定の大きな成果

矢巾町が町民の移動の足をしっかりつくろうと地域公共交通網形成計画を策定し、精力的に実行していくことで、公共交通空白地だらけだった矢巾町が嘘のように、移動しやすい町に変わって行きました。

最初は片道4便だったデマンドバス「のりあい号」も、方向性をなくし10便に増えました。担っているタクシー事業者の協力が大きく、また町としても、乗り方案内の動画を作成したり、地域に入っての説明を重ねてきたこと、地域側でも乗降場所の選定などで協力をしてきたことが良かったと思われます。

市街地循環バス「やはぱす」は、岩手県立大学の学生がバスサービスハンドブックなどを参考にしながら、計画の叩き台を作り、地域公共交通会議で学生自身が説明をし、構成員で議論を重ねてきた結果で生まれました。バスやバス停のデザインも学生が考えました。

地道な積み重ねによって、良い方向に進めることができつつあると感じています。

2　広域での計画の必要性

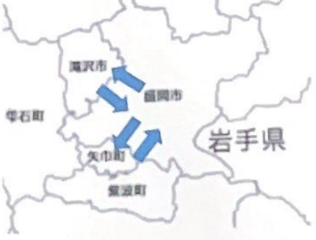
町単独で取り組んできた地域公共交通網形成計画、地域公共交通計画を経て、一定の成果が見られるようになりました。一方で、隣接市町との生活圏の繋がりを考慮した計画をつくることができないことのもどかしさを感じるようになりました。

3　盛岡都市圏地域公共交通会議の設立

2020年11月の「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の一部改正に伴い、「地域公共交通計画」の作成が努力義務化され、同時に、交通圏が複数の市町村にまたがる場合には、複数市町村による共同での計画作成を検討するものとされました。

盛岡市、滝沢市、矢巾町（以下、「盛岡都市圏」という。）は、これまで個々に計画を策定し、各種施策を展開してきましたが、盛岡都市圏の公共交通ネットワークの維持・確保・改善に向けて、盛岡都市圏共同で計画策定に取り組むため、新たに法定協議会、「盛岡都市圏地域公共交通会議」を2023年4月24日に設立しました。

2年後の計画策定と市町間の相互乗り入れを目指し、プロポーザルでコンサル事業者を決定したところです。

やはぱす 装い新た
「銀河鉄道」がテーマ
県立大生デザイン